

「道庁・育MEN(イクメン)のススメ」

～道職員活躍事例集(両立支援編②)～

【今回のテーマ】

地域活動に取り組む男性職員



北海道総務部人事局人事課

VOL. 9

はじめに

この活躍事例集は、各所属・職員のご協力により、仕事や子育ての実体験や、職員や今後道職員を志す方へのメッセージなどをとりまとめたものです。

第3弾では、両立支援編として積極的に育児に関わる男性職員を掲載していますが、2回目の今回は学校や少年団など地域活動に積極的に取り組んでいる男性職員を紹介します。

男性職員が子どもに関わる地域活動に積極的に参画し、ワークライフバランスの推進に取り組むことは仕事と生活の調和を確立するうえで重要なことと考えます。

職員の皆さんには男性職員が、地域活動に取り組む中で得たもの、男性職員の育児参加についての職場の理解など、今後の参考にしていただきたいと願っています。

また、これから北海道職員を目指す方にも、道職員が仕事と育児に取り組む様子を知っていただき、道職員について、一層の理解を深めていただけると幸いです。

平成28年2月5日
総務部人事局人事課

目次

- 根室振興局地域政策部
戦略策定支援担当部長 岡本 収司 …………… 3

小学校「親児の会」、小学校「MSC(もえぎサポーターズクラブ)」

- 総務部財政局税務課
主幹 田原 敦 …………… 6

宮の森グランドキング(スポーツ少年団・野球) 団長・監督・コーチ
札幌ジュニアベースボールクラブ 事務局長

- 総務部危機対策局危機対策課
主査 八田 望 …………… 6

宮の森グランドキング(スポーツ少年団・野球) 監督・コーチ

- 宗谷総合振興局地域政策部総務課
総務係長 加嶋 智徳 …………… 12

サッカー少年団審判員、サッカー少年団育成会会長

- 建設部まちづくり局都市環境課
主任 田原 潤 …………… 15

小学校おやじの会、学級代表(小学校)

- 建設部総務課
主任 鈴木 伸一 …………… 17

野球少年団コーチ

- 上川総合振興局地域政策部納税課
主任 金平 英行 …………… 19

バスケットボール男子小学生コーチ、バスケットボール女子小学生監督

根室振興局地域政策部
戦略策定支援担当部長
(長女 16歳、次女 14歳)

岡 本 収 司

○ 職務経歴

平成 2年4月 企画振興部統計課(採用)
平成 5年4月 上川支庁地方部総務課
平成 7年4月 東京事務所(財団法人地方公務員等ライフプラン協会派遣)
平成 9年4月 商工労働観光部労政福祉課
平成12年4月 保健福祉部地域福祉課
平成15年7月 総合企画部交通企画室交通企画課
平成17年4月 東京事務所主査(独立行政法人科学技術振興機構(JST)派遣)
平成19年6月 企画振興部科学IT振興局科学技術振興課主査
平成22年4月 保健福祉部健康安全局主査
平成24年4月 保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課主幹
平成25年8月 保健福祉部健康安全局地域保健課主幹
平成27年4月 根室振興局地域政策部戦略策定支援担当部長

小学校「親児の会」(東京)
平成18年4月～平成19年5月
小学校「MSC(もえぎサポーターズクラブ)」(札幌)
平成20年4月～平成27年3月

○ 現在の仕事

地域政策課の皆さんの協力を得ながら、根室管内1市4町のまち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略策定の支援をしています。

市町が主催する会議への出席、市町連携の推進に向けた調整、地方創生に関する各種の情報収集、「地方創生関連情報@ねむろ」によるメール情報の発信等が主な業務です。市町との仕事では、課長クラスの方とお話をする機会が多いですが、機を見て、首長とも意見交換を行い、取組の方向性を確認しながら業務を進めています。

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

東京で派遣勤務をしていたH18年4月、長女が江戸川区の小学校へ入学しました。学校から持ち帰ったプリントを見ていると、児童の父母が中心となって子ども達と一緒に活動する「親児の会」なるものを発見。楽しそうだなと思って参加することにしました。

H19年6月、転入先の札幌の小学校にも児童の父母からなる「MSC(もえぎサポーターズクラブ)」という場があることを知り、「親児の会」と同じようなものだろうと思い、H20年4月から参加させていただきました。

○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

活動していた頃の仕事の状況を振り返ると、東京での派遣先は、それまでに経験したどの職場よりも出張が多く、早朝に出発、夜遅くに帰宅という日もかなりありました。また、MSCの活動に参加していた頃も比較的忙しく、私の20年以上の道職員生活で最も忙しかった時期とも重なっていました。

そんな中、親児の会、MSC共に、仕事や家族の用事は会の活動に優先、都合のつく無理のない範囲で参加という方針だったことから、仕事とのバランスを特段意識することなく活動を続けることができました。

とは言え、仕事に多くの時間を取られていた頃、なぜ活動に参加していたのか。今から思うと、たくさんのお子様達の元気な姿に直に触れることで、こちらが仕事に向かうエネルギーをもらっていたのかも知れません。



○ 地域活動の内容

「親児の会」では、学校施設を使って、夏休みの校庭でのキャンプや冬の餅つき大会など児童参加型の行事を行っていました。特に印象的なのは、夏のキャンプ。私は、翌日の仕事の都合で夕食後、娘と一緒に帰る予定でしたが、帰る段になって小1の娘から「友達と一緒に泊まってもいい？」の一言。一人で帰宅の途上、娘のことを心配しつつ、親離れの第一歩かと思ったのを覚えています。

「MSC」では、運動会や学習発表会等の際のパトロール、校内のお祭りでの出店など学校行事のお手伝いのほか、ミニバレー大会や近隣の学校と共同開催の雪合戦など児童参加型行事の企画、町内会の冬のイベントに合わせた雪像づくりなど、幅広く活動をしていました。

娘が私と一緒にMSCの活動に参加することは、学校行事を除きほとんどなかったのが残念でしたが、多くのお子様達の笑顔と父兄の皆さんのはつらつとした姿に出会い、また、雪像づくりでは、近くに住む親子が雪像と一緒に写真を撮ったりと、楽しい光景が数多く思い出されます。



○ 家族の反応

江戸川区の親児の会は、妻、娘とも楽しかったようです。娘が小1と小さかったこともあり、行事の度に一緒に参加していたことも影響しているのではないのでしょうか。

札幌のMSCについては、「今どきそういうのに参加する親ってあまりいないから、参加していたのはよかったと思う(長女)」、「雪像とか雪合戦とか、近くに住んでいる人たちも楽しめる活動をしてくれるのは、良い機会だと思う(次女)」と、娘達は一緒に参加する機会が少なかったこともあり、客観的な感想しか持たなかったようです。一方、妻は、「負担がありそうと感じました」とのこと。自分の娘が参加しない休日の活動が負担に映ったのでしょうか。当たり前のように出かけていく私に対し、家族と一緒にいて欲しいという気持ちを言えなかったのかも知れないと少し反省しています。

○ 地域活動を経験して得たもの

子どもとの関係では、活動を通じて、娘の友達や同級生の顔と名前を覚えることができたこと、私の顔を覚えてもらえたこと、先生方との懇親会で学校での娘の様子が聞けたことなど、良かったと思えることが多くありました。また、逆説的ですが、自分が娘のことを如何に知らないのかに気づけたことも、娘との接し方を考える上で有意義でした。

そして、事例集の趣旨からは少し外れるかもしれませんが、同じ地域に住み、住職、コンサル、建設、青果卸、運送、医師など職業は違えども、一緒に子どもたちのことを考え、行動する方々と知り合えたのはMSCの活動があつてこそ。ありがたく思っています。



○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイス

仕事で疲れているところ、せめて休日くらいは家族でゆっくりしたいと考える方も多いと思いますが、子ども達は親が想像する以上のスピードで成長していきます。少子化も手伝って、子育てに関わるができるチャンスも限られています。もし、皆さんの身近に子どもたちのために親が集まる場があったら、是非一度、参加してみてください。そして、様々な機会を通じて、子ども達が喜怒哀楽の感情とともに成長する場面に寄り添い、心に残る思い出をたくさん作ってください。

※ MSCの活動は、会員減のため、現在小休止していると伺っています。

八 田 望

総務部危機対策局
危機対策課 主査
(長男16歳、長女14歳)



田 原 敦

総務部財政局
税務課 主幹
(長男28歳、長女26歳)

宮の森グランドキング(スポーツ少年団・野球)
コーチ 平成21年
監督 平成22年～現在

宮の森グランドキング(スポーツ少年団・野球)
コーチ・監督・団長 平成7年～現在
札幌ジュニアベースボールクラブ
事務局長 平成17年～現在

八 田 望

○職務経歴

平成 3年 7月 苫小牧林務署
平成 4年 4月 旭川林務署
平成 9年 7月 倶知安道有林管理センター
平成10年 4月 渡島支庁総務課
平成15年 7月 総務部人事課
平成21年 4月 総務部総務課
平成23年 6月 後志総合振興局地域政策部
総務課総務係長
平成26年 4月 総務部危機対策局
危機対策課主査

○現在の仕事

危機対策課の中でも、自然災害への対応以外のその他の危機への対応を担当しています。

例えば、大規模な停電ですとか、不発弾発見時の対応、北朝鮮のミサイル発射対応なども担当になります。

あとは、東日本大震災のような大規模な災害が発生した際の、広域的な応援・受援体制の検討を担当しています。

田 原 敦

○職務経歴

昭和63年 4月 網走支庁地方部税務課
平成 6年 4月 札幌南道税事務所課税課
平成11年10月 胆振支庁苫小牧道税事務所
課税課不動産取得税係長
平成14年 4月 胆振支庁税務部課税課
不動産取得税係長
平成17年 4月 総務部税務課主査
平成20年10月 十勝支庁地域振興部
課税課長
平成23年 6月 総務部財政局税務課主幹
(北海道警察本部交通部交通指導課派遣)
平成25年 4月 総務部財政局税務課主幹

○現在の仕事

道における歳入の根幹をなす道税収入を確保するため、徴収対策などの取組を行っています。

特に、皆さんに馴染みがある自動車税について、納期内納税の推進に向けた広報や納税者の利便性の向上を図るためクレジットカード納税を導入するなど、様々な取組を行っています。皆さんも自動車税は納期内に必ず納めましょう。

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

息子が小学校3年生の時に野球をやりたいと少年野球チームに入団したことが少年野球に携わるようになったきっかけです。

少しだけ野球を経験していたため、息子が入団後、毎週土日は練習のお手伝いなどをするようになりましたが、当時は団員も少なく一人でも休んだら試合に出られない状況でした。また、秋になると仕事の関係で監督が不在となり、コーチも偶にしかこないため、私を含めユニフォームを着ていない父親がベンチに入り試合を行いました。

当然、試合はコールド負けの連続、弱小チームは練習試合さえしてもらえない状況でした。この頃から伝統のあるこのチームをどうにかしなければという気持ちが強くなってきたと思います。父親コーチとして活動していた平成9年、家庭の事情により急に監督が辞めることになったため、土日が他のお父さんより比較的自由であったこともあります。子供たちに良い環境で野球をして欲しい、そして何より子供が好きだったこともあり監督をさせていただくことになりました。(カッコいいことを並べていますが、実は他のお父さんたちに乗せられただけだったかも?)

10年前、札幌市や石狩市などの少年野球チームで構成する「札幌ジュニアベースボールクラブ」の設立に伴い、役員(事務局長)を引き受けることになったため監督は辞めましたが、チーム内では団長として残させていただいております。

現在は、クラブの事務局長として各大会の運営をするとともに各試合での審判をするなど、毎週充実した日々を送っています。

私の後は、危機対策課の八田主査がしっかり監督を受け継いでいます。



八田 望

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

長男が小学校2年生の時に、現在のチームに入団したことが少年野球へ携わるきっかけになりました。私も小学生から野球をやっていましたが、最初から指導者として活動したわけではありません。

上級生が試合などで他のグラウンドなどに行った際、下級生は学校に残って練習するのですが、指導するコーチなどが足りない時など、手伝っているお父さんコーチでした。

ただ、元々野球が大好きですから、最初は人手が足りない時だけ行っていたのが、毎週末行くようになり、気づけばコーチに。その翌年には、前監督(現在は団長)から、何の根回しもなく、シーズン最後の納会で急に指名されたのがきっかけで、気づけば監督として6年が過ぎました。

元来、野球は教えたかったのですが、そのチャンスを与えていただき、今はどうすれば子供達が上手になるのか頭を悩ませる日々が続いています。



八田 望

○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

指導者として関わり出した際の職場では、人事を担当する仕事でしたが、少年野球の活動は、主に3月～11月の土・日・祝日であることもあり、仕事との両立は出来ていたと思います。

ただ、後志総合振興局勤務となった際、自宅もまだ持っていませんでしたので、家族みんなで倶知安に引っ越しましたが、長男が平日は倶知安のチーム、土・日はそのまま札幌のチームと掛け持ちで在籍させてもらったことから、私も監督を続けました。しかし、休みの日は札幌と倶知安を日帰りで行き来する生活が続き、連休の前などは、嬉しさより「今回は3往復かー」などとちょっと憂鬱だったのが、今となっては良い思い出です。

○ 地域活動の内容

野球の指導、チームの運営(集合時間や練習内容の作成、各大会事務局・他チームとの試合の調整など)、父母会との連絡調整

○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

少年野球に本格的に携わることになった時は、札幌南道税務所で仕事をしていましたが、少年野球の活動は、土日が主であったため、仕事に支障をきたすことなく、バランス良くできたと思います。

また、胆振支庁勤務の時も、野球シーズン中の土日は札幌に帰ることができましたので、特に問題もなく少年野球活動をすることができました。

○ 地域活動の内容

主な活動の内容は、以下のとおりです。

監督時	少年野球の指導、父母会や他チームとの連絡調整など
事務局長	クラブの運営、試合の日程調整、HPの管理、野球教室の開催など
審判	各大会での審判

八田 望

○ 家族の反応

札幌の少年野球はチーム数も多いうえに、6年生の大会や5年生の大会、4年生以下の大会もありほぼ毎週試合がありますので、チーム全体の責任を担う監督を引き受ければ、個人的な理由ではなかなか休めなくなります。

監督を引き受けることになった際、妻は、私が根っから野球が好きなのも知っていますし、長男が入っているチームの事ですので「子供達に野球を教えるなんて、なかなかやりたいと思ってもやれないし、チャンスを頂いたんだから頑張ったら」と、監督をすることについて理解を示してくれて本当に感謝しています。

息子は父親が監督になるのは、うれしくもあり、ちょっと嫌でもあり微妙な反応でしたので、気をつけたのは、息子をグラウンドでは誰よりも怒りませんが、家に一步入ったら、野球のことで怒らないようにしていました。息子もグラウンドでも家でも怒られたら嫌でしょうから。

ただ、人生の中で子供は成長し、父親と一緒に過ごしてくれる時間などあつという間にすぎるものだなと実感する中で、その時間を野球を通じてですが共有できたことは良かったなと思っています。

長女は、長男が在籍している間は、自分がやる訳でもないのに毎週末、朝から晩まで野球に連れて行かれ、金曜日になると「どこかに行きたい」と、行けないことが分かっていて、わざと言い出すこともあり、内心「申し訳ないな」と思ったこともありました。

そこで、長女にも一緒に野球をやるように進めたのですが「絶対にイヤだ！」と断られ、このまま運動嫌いな子になったら私のせいかなと思っていましたが、今は中学校でバレーボールを始め、札幌北選抜に選ばれるなど、自分の頑張れる事を見つけてくれたのでちょっと安心しています。



○ 家族の反応

田原 敦

監督をすることについて家族に相談したところ、チームの実状を分かっていたこともあって「お父さんがやりたいのであればやっていいよ。」と、特に反対されませんでした。ただ、息子は父親が監督になることについてはちょっと嫌だったようです。

また、息子が6年生の時、5年生以下の団員が8名だったことから、新人戦に出場するために4年生の娘を入団させなければならなかった時も、嫌がる娘に対し妻と息子が入団するよう勧めてくれました。娘が入団したことで新人戦に出られることになり、監督を続けられたのも家族の理解があったからではと思います。

ただ、一度だけ妻から監督を続けることについて反対されたことがあります。それは、娘が卒団した年に胆振支庁勤務になり単身赴任となった時です。

妻は、娘の卒団に加え単身赴任となったこともあり、当然監督を辞めると思っていたようです。

平日は家族と接することができないにも拘わらず、帰ってきた土日は朝早くから少年野球。当然、家族と接する時間は土曜日の夜だけのわずかな時間しかありません。妻から「少年野球のために帰ってきているの？」と言われた時は、真剣に監督を辞めようと思いましたが、でも、ようやく団員が増え、チームにまとまりが出てきた時に、成長していく子供たちの顔を見るとどうしても辞めると言えませんでした。妻には、今辞めたら悔いが残ること、また、できる限り家族と接する時間を作ることを条件に監督を続けることを了承してもらいました。好きなことをさせてくれる妻には感謝の気持ちでいっぱいです。

○ 地域活動を経験して得たもの

子供達の成長に、少し成りとも協力させてもらえる喜びを感じることが出来ました。

また、野球に限らず、少年期のスポーツは、これから成長していく子供達に、技術以外にも礼儀や協調性、他人への思いやりなどを学校とは違った角度から指導する機会でもあり、その中で、子供達に言っている言葉は、自分こそ本当に出来ているのだろうか？と考えさせられることも多々あり、子供達に教えることによって、自分を見つめ直すことにも繋がっているのかなと思います。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイスなど

道にはいろいろな職場がありますが、一般的に見れば土日の時間が自由になる職場が多いのかなと思います。少年野球に携わり、道職員の指導者が多数いることにちょっと驚きました。最初は自分の子供が野球を始めたことがきっかけで、今は指導者になっている方がほとんどかと思っています。

まずは、自分の子供にいろいろな経験をさせてあげてください。それがスポーツというツールなのであれば、そこに親として子供と一緒に関わることにより、自分の子供との貴重な時間を共有できます。

仕事で疲れている時もあると思いますが、自分の子供と一緒に行動してくれる期間なんてあっという間に過ぎて、気付いたときには反抗期かも。

ぜひ、自らの健康のためにも子供と一緒に少年団活動に参加してみてください。何をやらせて良いか迷ったときには、是非野球を。今は女の子も結構いますよ。

○ 地域活動を経験して得たもの

少年野球活動を経験し、改めて信頼関係や協調性の大切さを認識することができました。

また、沢山のひとと知り合うことができたことも財産となっています。

何より、子供たちと一緒に体を動かすことで、健康面や体力面において維持することができ、子供たちが夢に向かって頑張っている姿を目の当たりにし、自分も頑張らなければと元氣をもらうことができました。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイスなど

子供が野球に限らず何かスポーツをしたいと言ってきたり、また、子供が家に閉じこもりがち、友達が少ない、話題が少ないと感じたり、子供に何かスポーツを始めさせたいと思えば、是非、スポーツ少年団などに入団させてください。

子供がスポーツをしたいと言っても、自分の時間がなくなるからとか、送り迎えが大変だとか、父母会との付き合いが面倒だから入団させないと良く聞きますが、スポーツをすることで体力が付きまじ、協調性、友情、思いやりなど沢山の大切な事を身につけることが期待できます。また、多くの家族と友達になれ、他の家族と触れ合うことで子育てにも役に立ちます。

そして何より子供が逞しく成長していく姿を肌で感じる事ができますし、スポーツでしか味わえない感動を得ることができます。

少年団活動は、スポーツ活動だけではなく野外活動や学習活動も行いますので、運動が苦手な方でも大丈夫です。子供と一緒に自らも活動に参加してください。やってみると意外と楽しいですよ。



八田 望

チームワークの大切さ、勝つことの喜び、負けることの悔しさ、何かを成し遂げたときの充実感、人への思いやりなど、子供達が成長していく上で、スポーツを通じて学ぶことは大事な事も多く、それを教える役割は重要であり責任も伴うものだと思います。

大人として成長する入り口に立っている子供達に、少年野球を通じてスポーツの楽しさを伝え、そして中学・高校・大学と野球を続けていってくれる子供が一人でも増えるように、これからも頑張っていきたいと思います。

田原 敦

将来に向かって伸びていく子供たちの健康な体と心を育てるため、また、スポーツの楽しさを知り、スポーツを大好きになってもらうため、スポーツ活動に携わる私達の役割は非常に重要だと思います。

今後も子供たちのために少しでも力になれるよう少年野球活動を続けて行きたいと思います。

宗谷総合振興局地域政策部
総務課 総務係長

(長女15歳、長男12歳、二女6歳)

感動
てっぺんの星

わっかない
H O K K A I D O

加 嶋 智 徳

サッカー少年団審判員
平成22年～現在
サッカー少年団育成会会長
平成26年

○ 職務経歴

平成10年 5月 胆振支庁伊達地方環境監視室
平成14年 4月 胆振支庁地域政策部環境生活課
平成15年 7月 胆振支庁総務部総務課
平成20年 5月 総務部危機対策局防災消防課防災航空室
平成23年 6月 総務部危機対策局危機対策課
平成26年10月 宗谷総合振興局地域政策部総務課総務係長

○ 現在の仕事

振興局総務課では、職員の身分、賞罰などの人事に関することや、庁舎管理や行政情報の公開などの内部管理業務を行っています。その中でも、振興局長をはじめとした幹部職員のスケジュール管理や、庁内・各関係機関との連絡調整など、他の課・係に属さない業務を主に担当しています。

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

きっかけとなったのは、小学校に入学して間もない息子がサッカー少年団に入りたいと言い出したことです。それまでは、サッカーに興味を持っていた様子もなかったので、中学生の頃からサッカーをしていた私は、正直少し嬉しかったのを覚えています。当時は、地域にサッカー少年団があることも、どのように運営されているかも知らずにいました。少年団は、小学校の先生や学校関連のPTAではなく、父兄のボランティア(少年団育成会)によって運営されていて、子ども達が試合に出場するには、各チームに審判員が必要となることを知り、息子が入団するなら積極的に関わっていきたくらいと思い、サッカーとフットサルの審判資格を取り、少年団入団から5年目を迎えた昨年には、育成会の会長も務めました。

○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

1年生から4年生までの4年間は、練習試合や大会の帯同審判として、土曜日・日曜日の毎週末、札幌市内や近郊の小学校のグラウンド、体育館に行き、子ども達の引率や試合の審判をしました。平日は仕事、週休日はサッカーとはっきりしていたので、仕事に影響することなく、活動ができていたと思います。

育成会の会長になった時は、選手の登録事務手続や指導者会議への出席、練習・試合日程の管理の他、監督、コーチや小学校との連絡調整など、様々な役割が増えました。特に、平日の夜に開催される指導者会議は、各種大会へのエントリーを兼ねていて、会議に遅刻をしてしまうと子ども達が大会に参加出来なくなるため、終業前1時間の年休を取得することもありましたが、上司、同僚の理解もあり、支障なく続けることが出来ました。

昨年10月から稚内に単身赴任となったため、今年度は会長の職も降り、以前より関わる機会は減っていますが、週末は可能な限り片道5時間半かけて札幌まで走り、審判をするためだけに稚内と札幌を往復することもあります。



○ 地域活動の内容

審判の主な活動としては、試合の審判の他、子ども達への指導や、大会の会場校にあたっている場合は、早朝からグラウンドでライン引きをし、試合会場の運営、リーグ戦の管理などがあります。また、少年団の試合とは別に、札幌で開催される大きな大会の審判のお手伝いをすることもあります。育成会としては、「子供の心と身体の発達を目指し、親子のふれあいや子供たちの友情を大切にする中で、社会性を養っていく」を基本理念として、サッカーだけではなく、町内会行事への参加や、お泊まり会、ボウリング大会などのレクリエーション行事も行っています。

○ 家族の反応

少年団活動に関わって以来、週末といえばサッカーで、学年毎に試合が分かれるため、息子の関係しない試合にも帯同審判員として子ども達に同行しなくてはならないので、家族旅行や遊びに連れて行く機会も少なくなり、サッカーをやっていない娘達には、つまらない思いをさせてしまっていますが、それでも文句を言わず、子ども達と一緒にになって日焼けで真っ黒になりながら審判をしている私のことも応援してくれています。下の娘は、兄の応援によくサッカーに連れて行きますが、私が審判をしていると「お父さんがんばれ～」と審判を応援してくれます(笑)



○ 地域活動を経験して得たもの

一番は出会いです。少年団の子ども達は、運動会や参観日などの学校行事に顔を出した際、学年問わず声をかけてくれるので、自分の子どもが増えたような気がして、学校行事への参加の楽しみが増えました。また、指導者や父兄、サッカー協会の方々など、年齢も職種も様々ですが、サッカーを通じて知り合えた事は、大きな財産となりました。少年団活動がなければ、このような経験ができなかったのも、息子に感謝しています。他には、審判員の資格を取る際に、走力・実技・筆記試験があり、試験勉強をするのは学生以来だったので、審判員の資格を取ったことも、とても良い経験になりました。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイスなど

地域活動は、プライベートなので、職場では自分からそのような話をする機会も少ないかもしれませんが。私の場合は、外のスポーツということもあり、夏場になると毎週のように日焼けをし、月曜日といえば黒さが増した状態で出勤します。シーズン終盤には、暗闇で目と歯しか認識できない程黒くなり、周りの方も「どうしてそんなに黒いの？」と、つっこまざるを得ない状況でした。そんなこともあり、息子のサッカーチームで審判をしていることを上司、同僚に知ってもらえていたので、指導者会議やチームの引率などで休みを取ることがあっても、快く送り出していただきました。

今は稚内にいるため、どうしても審判として行かなくてはならない試合がある時は、移動のために金曜日や月曜日に年休を取得して札幌に向かうこともあります。その時々職場環境や、自分の役割によって違いはあると思いますが、周囲の理解が得られているのといないのでは、仕事と地域活動を両立していくにあたり、気持ちの面でも大きくと違うと思うので、普段から良好な関係を築いておくことも大切だと思います。



建設部まちづくり局都市
環境課 主任
(長女18歳、長男11歳、
二女 8歳)

小学校おやじの会
平成26年～現在
学級代表(長男)
平成27年～現在

田 原 潤

○ 職務経歴

平成12年4月釧路支庁社会福祉課
平成15年7月釧路支庁振興課
平成20年4月建設部建設管理局建設政策課(石狩湾新港管理組合派遣)
平成23年4月建設部建築局計画管理課
平成26年4月建設部まちづくり局都市環境課

○ 現在の仕事

公共下水道事業特別会計に関する業務として資金管理、予算執行、予算決算の業務を行っています。この他一般会計に関する業務では市町村の公園・下水道事業の交付金に関する業務として、市町村からの交付金申請書類・請求書類の集約、国への提出、事業完了後の検査、そして道立都市公園事業に関する業務として、振興局への予算配当や支出業務と多岐にわたる業務を行っています。

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

長男が3年生の時、子供が通う岩見沢市立南小学校のお父さんで組織されるおやじの会が主催する「食の祭典」というイベントに子供と妻が参加しました。子供から「友達のお父さんと遊んですごく楽しかった。パパも参加してみんなで遊びたかった」と言われました。私がおやじの会に参加してみたいが人見知りなので参加するか迷っていたところ、妻から「参加してみたら。お父さんの知り合いもできるし、いいのでは」と後押しされて、参加することを決めました。



○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

おやじの会の打ち合わせ、PTAの学級代表の会合自体の回数は多いわけではありませんでしたが、PTA活動はやはり日中に行われます。参加するに当たり1日休暇を取得しなくてはならないことから、不在時にグループメンバーに迷惑を掛けないよう仕事を終わらせ、簡単な引き継ぎを行いました。

○ 家族の反応

妻は、これまで子供の学校(PTA)関係の行事には参加してこなかった私が、おやじの会に参加してから、今年度はPTAの学級代表に自ら立候補し、積極的に学校に関わるほどの変わりように大変驚きつつも、子供とともに喜んでくれています。

○ 地域活動の内容

おやじの会のメンバーはお父さん約10名ですが、打合せでは子供たちの為に何が出来るのかを考え、活動内容を検討しています。主な行事としてはグラウンドの雪割りと食の祭典(スポーツ&BBQイベント)があります。

グラウンドの雪割りは道内有数の豪雪地帯である岩見沢で少しでも早く子供たちが運動会の練習をできるようにするため行っています。ただ、お父さんたちだけで行うのではなく、子供たちも一緒に雪割りしませんかと呼びかけを行い、子供たちとの交流の場にしており例年子供を含め50名程度集まっています。

メインの活動として8月末に食の祭典を開催しています。午前中は小学校のグラウンドでキックベースなどの運動、そして昼食のBBQで子供たちやお母さんたちをおもてなししています。特にその日の朝、留萌で買ってきたホタテ釣りをしてもらおうというのが好評です(私はホタテマンとして盛り上げました)。その他かき氷、綿あめなども準備して子供たちに夏祭り気分を楽しんでもらっています。

学校から力仕事など依頼があった場合に積極的に参加しています。

このほか、学校から力仕事など依頼があった場合に積極的に参加しています。



○ 地域活動を経験して得たもの

学校の先生との距離が縮まったことや岩見沢で色々な仕事に従事する方と知り合いになれたことです。本庁勤務で直接地域の方と関わりが少ないのですが、地域での話題・課題について、職種が違う人との意見交換が出来ました。そこから新しい人脈ができて、交友関係も広がりました。地元で行われるフォーラムなどにも参加する機会が増え、地元について考えることが多くなりました。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイス

「繁忙期だから自分は参加できない。」とか、「家事は手伝っているからそこまではいいかな。」と言う方も多いかと思いますが、まず1回子供の授業参観に行ってみてください。

いつも家で見ている子供とも、奥様から聞く子供とも違う子供の成長する姿が見られるはずです。私も今年PTA役員になってから参観日に行くようになったのですが、いつも親の話を真剣に聞かない長男が、学校では先生や同級生の発言に対して集中している姿をみる事ができました。

いきなりPTA役員をやると思う必要はありませんが子供を成長させてくれる学校生活をより良いものにするために、学校・先生と積極的に関わっていこうと思えるのではないのでしょうか。

建設部総務課 主任
(長男8歳、長女5歳)

鈴木伸一

野球少年団コーチ
平成26年～現在

○ 職務経歴

平成 5年 5月	網走支庁経済部建設指導課
平成12年 4月	釧路土木現業所企画総務部工事契約課
平成15年 7月	釧路土木現業所管理部用地課
平成19年 7月	帯広土木現業所企画総務部工事契約課
平成21年10月	帯広土木現業所企画総務部総務課
平成22年 4月	帯広建設管理部建設行政室建設行政課
平成22年10月	建設部建設管理局建設情報課
平成25年 4月	建設部建設政策局建設管理課
平成27年 6月	建設部総務課

○ 現在の仕事

現在、建設部総務課総括グループに配置され、建設部長書記を担当しております。
主な業務の内容は、部長の出席行事、出張、各種打合せ・面談等のスケジュール調整や道議会の対応、内部及び外部からの電話対応などを行っております。

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

長男が小学校へ入学すると同時にいずれかの野球チームへ入団させたいと考えていたところで、現在の少年団に職場の先輩の息子さんが所属していたこともあり、入学前に何度か体験練習に親子で参加させていただいたことがきっかけで、コーチの依頼がありました。

私自身がコーチやチームスタッフとして携わることが全く考えていませんでしたので、話をいただいたときは正直かなり迷いましたが、団員に自分の今までの経験や知識を伝えることで、少しでも成長の手助けになることができればと考え、引き受けることを決意しました。



○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

野球少年団の活動としては、休日のほか、平日は週2日程度夕方の練習日がありますが、平日の指導を担当してくれる地域の方がいることから、専ら土日及び祝祭日にコーチを担当しています。

休日等に特別な業務が無い限りはコーチとして少年団の活動に参加しており、平日に休暇を取得しての対応など、仕事に影響するような状況は今のところ無く、また、少年団側からも仕事に対する配慮をいただいています。



○ 地域活動の内容

活動の内容は、団員への野球の技術指導のほか、挨拶・整理整頓・基本的なマナーなど礼儀や身の回りの指導、助言などを行っています。また、練習や試合時における団員の送迎、グラウンド設営、審判なども行います。

【主な内容】

- ・練習メニューの調整
- ・練習や試合時の技術指導、作戦指示など
- ・監督不在時における試合の采配
- ・団員の体調管理
- ・練習、試合会場までの送迎及び用具運搬
- ・ネット張り、水撒き等のグラウンド設営
- ・試合時の審判
- ・シーズン中のグラウンドの草刈り
- ・シーズン前のグラウンドの除雪

その他、少年団及び父母会として地域町内会主催のレク等の行事に積極的に参加、協力しています。

○ 家族の反応

妻は、以前から私自身が野球などで休日は不在にすることが多かったので、長男が私の一番の趣味である野球を始めたことにより、家族と関わる時間が増えたことが良かったようです。

長男は、自分の父親がコーチということで、野球のことをいつでも聞きやすい反面、何事においてもほかの団員より厳しく注意・指導されるため、気持ちは複雑だと思います。

○ 地域活動を経験して得たもの

後輩に技術的なアドバイスをしたことはありますが、初めて野球をする子供たちに対しての指導経験は無かったので、一から教えることの難しさを痛感しました。

自分の経験をベースに指導してしまいがちになるため、どうすればうまく伝えてあげられるかを考えたときに、自分自身が基本を見つめ直し、子供たちの目線(レベル)に合わせてあげることが重要だと気が付きました。

また、コーチを引き受けたことによって、野球関係者やPTAはもとより、町内会・地域の方々など、幅広い人との繋がりを築くことができました。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイス

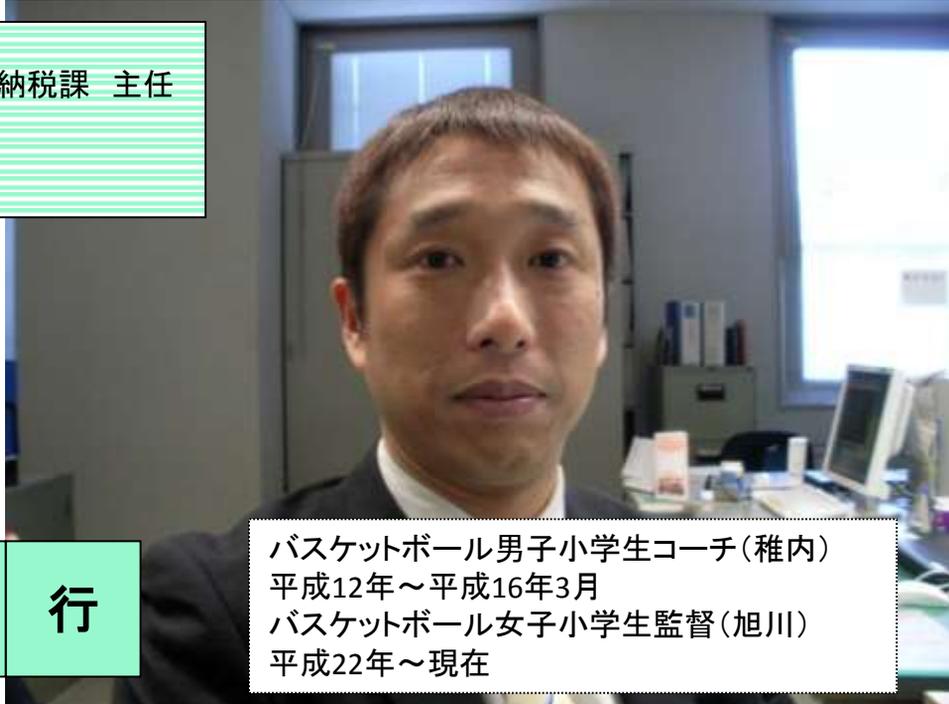
私は今までの殆どを仕事や自分の趣味など中心で生活してきたことから、人にアドバイスできるような立場ではありませんので、こうしていれば良かったなということでお伝えします。

やはり現在は共働きの夫婦が多く、時代背景からも男性が育児・家事を積極的にやっていかなければならないととても感じています。

だからといって自分の趣味など全てをやめてしまうことも良くないと思うので、今までよりも育児・家事の割合を増やし、少しの趣味を楽しみ(家族で同じ趣味を持つなど)、そして家族のために仕事を頑張ることができれば、ワークライフバランスも良い方向に向くのではないかと思います。



上川総合振興局地域政策部納税課 主任
(長女15歳、長男14歳、
二男 7歳、二女 3歳)



金 平 英 行

バスケットボール男子小学生コーチ(稚内)
平成12年～平成16年3月
バスケットボール女子小学生監督(旭川)
平成22年～現在

○ 職務経歴

- 平成10年 5月 宗谷支庁地域政策部地域政策課主査(防災)付き
- 平成12年 3月 宗谷支庁総務部会計課
- 平成16年 4月 宗谷支庁総務部総務課
- 平成17年 5月 上川支庁総務部総務課
- 平成21年10月 上川支庁地域振興部地域政策課
- 平成25年 4月 上川総合振興局地域政策部納税課納税第二係

○ 現在の仕事

自動車税の徴収を担当しています。納税課に配属される前までは、道職員や市町村職員と接することの多い部署でしたが、今ではいろいろな地域住民と接することが多くなりました。納期限内に一括納付する人とはほとんど接することは無く、「事情により納付が遅れる人や分割納付を希望する人への相談対応」、「悪質な滞納者への預貯金や給与などの財産差押」が主な業務です

○ 地域活動取組のきっかけ・動機

宗谷勤務時代に稚内地区バスケットボール協会の方が突然職場に来て、支庁職員と開発建設部職員で新たな社会人チームを結成して欲しい、地元の男子小学生にバスケットボールを指導して欲しいという2つの依頼を受けこれを快諾しました。これが指導者という立場で子供たちへバスケットボールを教えることになるきっかけです。

上川に転勤して長女が小3の夏にバスケットボールの少年団に入団しました。地域に女子チームはあるものの男子チームが無かったので、新たに結成し指導に関われば良いなと考えていた矢先、5人ほどの女子チームの監督、コーチ全員が辞めてしまいチーム存続の危機になりました。そして、当時の上級生の保護者から依頼を受け女子チームの監督になりました。

○ 地域活動取組時の仕事とのバランス

チームの練習は、週5日で月・水・金が16時00分～18時30分、土・日は練習、練習試合、大会などです。平日は、仕事が終わってから体育館に行くので18時頃になります。土日は最初から最後まで関わっていますので朝外出し夜帰宅という日がたくさんあります。仕事の時間と重ならない範囲で関わっていますので、影響はほとんどありませんが、月曜日は疲労が残っていたり声が出ないということが時々あります。



○ 家族の反応

中学3年の長女は、0歳の時から私の試合会場に連れて行き、バスケットボールを見てきたので自然と自分から競技を始めました。体育館では監督、家では父という生活に相当な苦労もあったはずですが、小学6年の時には地区優勝し全道大会出場、最優秀選手賞、中学でも競技を続け地区選抜に選ばれるなど既に私の競技者としての実績を越えており、少しは私への感謝の気持ちもあるようで、週末留守にする私に不満を言うことはありません。

中学2年の長男は、やはり長女と同様にバスケットボールをやりたかったようですが、男子チームが無かったためサッカーを始め今では部活のキャプテンを務めています。

二男と二女は生まれたときから「パパは仕事かバスケットボールで毎日家にはいない」という環境です。長女や長男の時と同じだけ遊ぶ時間を確保できませんが、毎日一緒に朝食を食べ、一緒にお風呂に入り、一緒に寝ることを喜んでくれています。妻は……ご想像にお任せします。

○ 地域活動の内容

女子小学生への「バスケットボールの技術指導」ということですが、6年生と1年生とでは身体能力に大きな差があり、理解力も違うため同じ言葉で説明しても通じません。

現在、6年生5人、5年生4人、4年生4人、3年生1人、2年生2人、1年生5人が所属していますが、大切な基礎を伝えるため相当な時間を費やしています。

また、ミニバスケットボール競技規則の【まえがき】に「競技が友情、ほほえみ、フェアプレイの精神によっておこなわれること」とあります。ゲームで勝敗を競うのは、子どもたちにとって非常に魅力的なことではありますが、何が何でも勝つという考え方を子どもたちに教え込んではいけません。努力すること、あきらめないこと、助け合い、励まし合うこと、苦しいときこそ挑戦することの出来る前向きな人間の育成、生活面につながる力の育成(根気、自主性、協調性、責任感、創意工夫、公共心、礼儀)を重点に「すばらしいプレイヤーである前にすばらしい人間を目指す」活動をしています。



○ 地域活動を経験して得たもの

近年、学校やスポーツの現場では、体罰や暴言という許されない行為が発生し、社会問題として取り上げられるなど教員や指導者のモラルが問われています。

「なぜそんなことも出来ないのか」、「集中していないからミスをするのだ」という発言を聞いたことのある人も大勢いると思います。プロ選手ならそれで良いかもしれませんが、子供に対して、特に小学生に対してどうなのか。自分の指導力の無さを棚に上げて怒鳴っているとしか思えません。「そんなことが出来るよう指導していない」、「集中してプレーできる選手を育てていない」指導者に原因があります。私は、選手に「勝因は選手の努力の結果、敗因は監督の指導力不足」と話しています。

監督になったばかりの頃には、このような考え方は持っていませんでしたが、7年目の今はこの考え方が正しいと信じています。

そして、この考え方は仕事にも通じています。初めて後輩が出来たとき、きちんと説明もせずに仕事を押しつけ、ミスがあれば大きな声で指摘する。これがかっこいいと当時は思っていたし、職場の雰囲気も「仕事は教わるのでは無く盗むもの」といった感じがありました。今では、分かりやすく丁寧に説明することを心がけ、ミスが発生すれば自分の説明に至らない点があったと反省しています。

○ これから育児に関わる男性職員へのアドバイスなど

私は、休日には家族サービスをしているという世間にたくさんいる立派な父親とは全然違いますし、子供たちと過ごす時間もとても短いわけですが、その短い時間でどれだけ真剣に子供たちと向き合えるのかが大事だと思っています。そして、一番のポイントは叱るときにあります。「怒るのは感情、叱るのは教育」という言葉がありますが、「決して感情的にならず、大声を出さず、まず子供の話を聞く、それから間違いを気付かせ正しいことを伝える」ということを心がけています。

「4人も子供がいて大変ではないの」と多くの人から言われますが、『安心してください。育っていますよ。』4人の子供のおかげで毎日が幸せです。





道職員活躍事例集（両立支援編②）

平成28年2月
北海道

【ご意見などがありましたらこちらまで】

北海道総務部人事局人事課サービスグループ

電話：011-204-5027（直通）

F A X：011-221-6399

電子メール：somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp